

### 第133回 増えています、口腔がん

以前、第118回の本コラムで「口腔がんの発生は年間1万人に1人程度、他の癌よりは少ない」、「口内炎のような病気、<sup>こうくうへんぺいたいせん</sup>口腔扁平苔癬は稀にがん化する(約1%)」とお伝えしました。

他にがん化のおそれがある病気には<sup>こうくうはくばんしょう</sup>口腔白板症があります。舌や歯肉、口の中の粘膜が白く変化するのが特徴です。痛みや自覚症状は乏しいことがあります。病気の原因は不明ですが、喫煙や飲酒が影響するようです。がん化の可能性は約10%です。

口の粘膜は歯や入れ歯が当たったり、こすれたりします。刺激が続くと粘膜が厚く、白くなることがあります。このような白くなった変化は白板症と区別がつきにくいいため、注意が必要です。

口腔がんは1989年の発生数が年間約3000人に対し、2019年は年間約12000人、30年で4倍に増えています。増加の理由は、病気にかかりやすい年齢が60代～70代であり、高齢者人口が多くなったためと考えられています。

他のがんと比べると口腔がんはかかりにくい病気ですが、年々増加しており、見分けが難しいこともあります。治りにくい口内炎や口の中の白い変化が気になる場合は、まずはかかりつけ歯科でのご相談をおすすめいたします。